

ココロさんの ひとごと



「頑張っている」みなさんへ

2021年2月 No.16

学校に行きにくい子が、周囲の人に対して、「自分のしんどさを全然わかってくれない！」ということがあります。大人はつい「もっと頑張れるんじゃないか」「みんな嫌なことがあっても我慢している」「そんなことぐらいで休んでいたら、社会で通用しない」など、厳しい言葉を言ってしまうものです。言われた子は、「お母さんはひどい」「お父さんのことが許せない」「先生の顔も見たくない」と訴えます。ところが、そんなふうに訴えていた子の話をゆっくり聞くと『しんどいのに頑張っているんだね』と認めてほしいだけ』とつぶやいたことがありました。

学校に行きにくい子どもの中には、自分の気持ちを言葉で表現するのが苦手な子どもも少なくありません。親子で学校のことを話そうとしても、黙り込んだり、泣いてばかりだったりという子もいます。うまく伝えられないことにイライラして、大人に対する怒りの言葉を言ってしまう子もいるでしょう。大人の方も、子どもが何を考えているかわからず焦ったり、表面的な言葉を真に受けて言い争いになってしまったりします。このような状況でも保護者の方からは「しんどいのに頑張っているということは、わかっているんです」とおっしゃる方が多いです。でも、それを子どもに伝えることは、なかなか難しいようです。それを伝えたことで「休んでいることを認めたことになって、ずっと休むことになってしまいそうで怖い」と言われることもあります。

不登校の相談では、「学校に行かせるべきか、休ませるべきか」と聞かれることも多いです。これは、一人ひとり状況が違うので、一概にはどちらがよいと言えません。しかし、『しんどいのに頑張っているんだね』という声かけは、登校を促す場合でも、休ませる場合でもぜひ伝えていただきたい言葉だと思います。『しんどいのに頑張っているんだね』と子どもに伝えることで大人の方も、「この子はしんどいのに頑張っていたんだ」ということを思い出すことができます。さらに、そう思うことで、自然と温かい態度で接することができるのではないのでしょうか。

時には、『しんどいのに頑張ってるんだね』と口にできないほど、保護者の方が疲れておられる場合もあります。「大人だって、しんどいのに頑張ってるんだから」と言われます。本当にそうだと思います。まずは、大人が、「自分はしんどいのに頑張ってるな」と自分自身に声かけするといいかもしれません。もし、相談に来られたら、ぜひ、「私だって、しんどいんです」と言ってもらえたらと思います。そして、一緒にお子さまが『しんどいのに頑張ってるんだ』という姿に思いを巡らせ応援しながら、これからのより良い生活に向けて相談ができたらと思います。